

## 天文学者からのメッセージ (The Message from Astronomers)

多喜百合子

2012年6月6日

太陽のゆらゆら揺れる炎の中に  
金星がゆっくり入ってきた。  
ちょうどホクロのような大きさだ。  
地球では 生暖かい風がふいていた。  
朝 7時半頃から 6時間ほどかけて  
下向きの弧を描くように移動して  
金星は 太陽面を通過して 出ていった。  
次に日本でみられるのは 100年以上も先とのこと。

国際天文台 International Astronomical Union=IAU が  
今まで名前のついていなかった小惑星に  
東日本大震災の被災地へのエールとして  
被災地 10箇所の名前をそれぞれつけることを承認した  
フクシマから 3都市、そしてわが茨城も星の名前になった。

☆

フクシマのこと  
原発のこと  
携わった科学者たちは  
経済優先の政府、電力会社から 配られる  
ビッグマネーの前に  
自分たちの出したリスクの値が値切られていくのを  
容認してしまった。  
どうせ誰もわからないから  
とりあえず原発作って  
とりあえず二酸化炭素出さないから環境によいと言って  
安全神話を作って 100%大丈夫みたいなことを  
言ってしまった。

とりあえず 事故が起きなければ  
天体ショーのように  
誰の目にもわかる 計算値の正否の判定は  
でないから。

フクシマの事故による放射能被曝線量の推計結果が  
2012年5月23日 WHO（世界保健機関）から発表された。  
その一週間前 連絡を受けた日本政府は  
強く抗議した。  
東京を含む その数字の大きさに驚き  
数字が一人歩きして国民に不安と混乱がひろがるからと  
その結果 公式発表は 最初の数字より 各地域 1/10 から 1/2 にさがった。  
それでも日本政府の発表と WHO の値は大きく離れている。  
日本政府は放射能の中でも 体からすぐ出ていくセシウムしか  
はからない。  
骨に溜まってしまうストロンチウムや永遠に外に出ていかない  
プルトニウムなど他にもたくさん放出されている放射能値を加えない。  
そのセシウムだけの低い数字を示して  
WHO の数字はまだ高いと抗議を続けている。

99.9999.....%安全といわれた原発が  
今多くの人に取り返しのつかない健康被害のリスクを  
与え続けている。

見かけ上の安全にこだわり  
日本政府の政治判断による原発再稼働にむけて  
放射能値と安全基準を  
バナナの叩き売りのように  
下げ続ける姿勢は  
事故後ますます強くなる。

医療用に 核を日々使い その利点も怖さも十分知り尽くした  
東大のアイソトープセンター所長 Radioisotope Center The University of  
Tokyo) は  
国会で強く政府に訴えた。  
「本当の医者なら 事故により体の不特定の部位に被曝した人間の命を

確率論で評価してはいけない。  
罹患するか しないか、100か0しかない。  
生身のひとりの人間に対し なん%病気になったなんていえないでしょう。」

☆

エリートとよばれる御用科学者、御用医師の先生方、  
あの日 あなたたちは 宇宙を見あげましたか？  
太陽を、 太陽を取り巻く惑星の動きを。  
聞きましたか？  
天文学者からのメッセージを。  
天文学者たちが 一生懸命計算して予測した  
時と場所、様子が  
全ての人の目にさらされ そして  
すべて正しかったことが証明されました。  
同じことが 105年後の12月にあることも予測しました。  
私たちはそれを信じることができます。  
でも その時  
この地球上に私たちの子孫が住んでいられるかどうかは  
わかりません。  
御用科学者、御用医師の先生方、  
原発の本当のリスク、拡散している放射能の数字を  
値切られても 値切られても 屈することなく ありのまま公開してください。  
政治家に動かされるのではなく  
逆に政治家たちに 真実を説明し  
動かしてください。

**Note :**

2012年5月21日には金環日食もあった。  
わずか5分間であったが、太陽がほとんど隠れても 明け方のような明るさがあった。金環の太陽はフクシマの事故原発の真上をぬけて 太平洋沖に消えていった。天文学者の予想通りの運行を 被災者とともに 日本中が 無言のまま 見上げていた。  
しかし 6月8日 野田首相は 大飯原発の再稼働を決めた。美浜原発（使用年数40年以上経過）など順次 政府の決めた要件をみたしているものを稼働していくという。